

慶應義塾大学大学院 文学研究科 後期博士課程

哲学・倫理学専攻 倫理学分野

3つのポリシー

【ディプロマ・ポリシー】

哲学・倫理学専攻倫理学分野では、課程修了時に学生が身につけるべき能力として以下のものを定め、学則に従って修了要件を満たし、博士論文審査に合格した学生についてはこの能力を身につけた者と認め、博士（哲学）の学位を与える。

1. 倫理学研究、あるいは関連領域の研究を内容として博士論文を執筆し、その論文を通じて、当該領域の研究に独創的な寄与を成すことができる。
2. 研究対象とする分野について、最新の研究動向や研究課題に精通し、包括的で深い専門知識を有し、母語や外国語（英語・ドイツ語・フランス語・ロシア語など）で国際的に成果を発信してその分野の研究に独自の貢献ができる。
3. 専門研究を通じて多様な思想の歴史的、文化的特性を理解するとともに、現代における重要な倫理的問題を認識し、それを解決していくための高度な研究能力を有することで、高度なリテラシーと批判的分析能力を備えた研究者、教育者、実務家として現代社会に貢献できる。

【カリキュラム・ポリシー】

哲学・倫理学専攻倫理学分野では、ディプロマ・ポリシーの達成を目的として以下のカリキュラムを編成する。

1. 倫理学の領域の研究に独創的な貢献をする博士論文の執筆を可能とするため、指導教員が担当する倫理学特殊研究、倫理学特殊研究演習を中心とした履修を行うとともに、指導教員が中心となって個別に論文指導を行い、高度な研究能力を養う。
2. 博士学位取得のためには、学生は専攻、分野が定めた博士論文執筆資格審査に合格し、指導教員の許可を受けた上で博士論文を文学研究科委員会に提出して受理される必要がある。さらにその後1年以内に、文学研究科委員会で承認された主査および副査によって論文が審査され、文学研究科委員会に報告された審査結果に基づき、文学研究科委員全員の投票によって合格しなくてはならない。哲学・倫理学専攻倫理学分野においては、分野が定める「博士の学位申請および論文審査に関する手引」に定められた学位申請の資格を満たしている必要がある。
3. 専門とする領域において最新の研究動向や研究課題に精通し、独自の貢献をするた

めに必要な高度な研究能力を養成するため、博士課程の全在学期間を通じて履修可能な少人数演習科目として倫理学特殊研究、倫理学特殊研究演習を設置し、その履修を修了要件とする。研究成果を学会や専門誌で発表することを目的として具体的な指導を行う。また、教員が実施しているプロジェクトに参加することを通して、専門知識にもとづいた高度な研究を実施する能力を身につけるために、修士課程・後期博士課程共通科目として、プロジェクト科目を設置する。

4. 文学研究科ならびに慶應義塾大学国際センター等を通じて留学を推奨する。また、文学研究科独自の支援制度により留学を援助する。
5. 海外への留学等を念頭において、より柔軟な履修を行えるように、全ての科目は半期科目として開講する。
6. 研究分野のより専門的な研究を可能とするために、海外の大学院への正規留学によって取得した単位を、単位数を限って修了要件に含めることを認める。
7. 博士課程の学生の高度に専門的な研究を推進するために、海外の著名な研究者に副指導教員としての指導を依頼し、文学研究科委員の指導教員との共同指導のかたちで博士論文を準備することができる。

【アドミッション・ポリシー】

哲学・倫理学専攻倫理学分野では、次のような資質を持つ学生を求めている。

1. 自分の研究領域および関連分野について、高度な専門的知識を持っている。
2. 修士課程における専門的研究をふまえて、博士論文につながる独創性のある具体的な研究計画を自ら考え、母語ならびに外国語でまとめることができる。
3. 外国語の一次資料および二次資料を正確かつ批判的に読むことができる分析的な読解力、学術的な論述力を身につけている。また、現代社会の倫理的問題に対して深い関心と理解を有している。
4. 研究資料を講読するに十分な第2外国語の能力を有している。
5. 博士課程修了後の研究者、教育者、実務家としてのキャリアについて、積極的かつ具体的に考えている。